

## 第5章 to 不定詞

### ■ 不定詞

#### (01) 特定と不定

例えば、主語が3人称単数で現在のことを述べる場合、一般動詞の語尾には (e)s をつけなければならない。これは人称・数・時制に応じて形が特定化されていると言える。これに反して、人称・数・時制に応じて形を変える必要のないものがある。これを不定詞という。不定詞には原形不定詞と to 不定詞の2種類があるが、一般に、原形不定詞は単に動詞の原形と呼ばれていることが多い。ここでは to 不定詞について述べる。

#### (02) 基本3用法

to 不定詞は、動詞の性質を持ちながら、名詞・形容詞・副詞などの働きをする。そこで、to 不定詞は文中での働きによって、①名詞的用法、②形容詞的用法、③副詞的用法の3つの用法に分類されるのが通例であるが、全ての to 不定詞が必ずこの3つの用法のいずれかに分類できるわけではない。

#### ① 名詞的用法

文中で、「主語」、「補語」、「目的語」になる用法を名詞的用法という。「～すること」と訳せる。

01. **To play tennis is fun.** [to play tennis=主語] (テニスをすることは面白い。)
02. **My hobby is to play tennis.** [to play tennis=補語] (私の趣味はテニスをすることです。)
03. **I like to play tennis.** [to play tennis=目的語] (私はテニスをするのが好きです。)

#### ② 形容詞的用法

to 不定詞は名詞の後に置いて、前にある名詞を修飾できる。この用法を形容詞的用法という。「～するべき」と訳すのが良い。

04. **I have a friend to help me.** [to help me は直前の a friend を修飾している。]  
(私には私を助けてくれる友達がいる。)
05. **I want a book to read on the plane.** [to read は直前の a book を修飾している。]  
(私は飛行機の中で読むべき本が欲しい。)
06. **I have no right to do it.** [to do it は直前の right を修飾している。]  
(私にはそれをするべき権利がない。)

### Dr. Higgins's room

名詞を修飾する形容詞的用法を細かく分析すると、修飾される名詞が、①to 不定詞の意味上の主語になっているもの、②to 不定詞の意味上の目的語になっているもの、③その他の関係になっているもの、の三つの場合に分けることができる。例えば、04. では、「私を助ける」のは「友達」なので、friend は意味上の主語になっている。05.では、何を読むかと言えば、「本を」であるから、book は意味上の目的語になっている。06. では、right は主語でも目的語でもなく、to 不定詞は「権利」の内容を言っていることになる。

### ③ 副詞的用法

to 不定詞は文末や動詞の後方に置いて動詞を修飾したり、形容詞の後に置いてその形容詞を修飾したりする。この用法を副詞的用法という。副詞的用法はその表す意味によってさらに細かく分類される。《目的》では「～するために」、《感情の原因》では「～して」、《判断の根拠》では「～するとは」、《結果》では「～する結果となった」と訳す。

07. **My brother went to America to study English.** 《目的》

(兄は英語を勉強するためにアメリカに行きました。)

08. **My brother went to America in order to study English.** 《目的》

(兄は英語を勉強するためにアメリカに行きました。)

09. **We stood up so as to see our son better.** 《目的》

(私達は息子がもっとよく見えるように立ち上がりました。)

10. **We were very glad to hear the news.** 《感情の原因》

(私達はそのニュースを聞いてとても喜びました。)

11. **He must be rich to buy such a large house.** 《判断の根拠》

(彼はそんなに大きな家を買うとは金持ちに違いない。)

12. **He grew up to be a fine gentleman.** 《結果》

(彼は大きくなって立派な紳士になった。)

### Dr. Higgins's room

《目的》の意味を明確に表すために、〈in order to〉と〈so as to〉の二つの慣用表現がある。ただし、〈so as to〉には若干《結果》の意味も含まれている。つまり、結果的に to 以下のことが起こってもらいたいという含みがある。

### Dr. Higgins's room

「～しないように」という《否定の目的》を表す場合は、be careful, take care の後では not to～を用いるが、それ以外では〈in order not to〉または〈so as not to〉のいずれかを用いる。

### Dr. Higgins's room

《目的》と《結果》用法の違いは表裏関係にある。主語に意図があれば、《目的》となるだろうし、主語の意図と関係のないところで起これば《結果》になる。例えば、次の英文は《目的》・《結果》のどちらにも解釈できる。

**He worked hard to have his house.**

《目的》と解釈すれば、(彼は自分の家を持つために一生懸命働いた。)

《結果》と解釈すれば、(彼は一生懸命働いた結果自分の家を持った。)

### Dr. Higgins's room

《結果》を表す特別な言い回しがある。一つは〈 only to〜 〉で、ある行為が期待外れや意外な結果に終わった場合に用いる。もう一つは〈 never to〜 〉で、再びすることがなかった場合に用いる。両方とも独立性の強い句を構成するので、直前にコンマを打つことが多い。

**He tried it again, only to fail.** (彼はもう一度やってみたが、失敗しただけだった。)

**He left his hometown, never to return.** (彼は故郷を出て、二度と戻ることはなかった。)

### Dr. Higgins's room

〈 only to〜 〉は《結果》を表す言い回しと考えるのが普通であるが、「ただ〜するために」というように《目的》を表すこともあるので注意が必要である。

**He lives only to make money.** (彼はお金を儲けるためだけに生きている。)

(03) to 不定詞を用いた構文

#### ① It is...for 人 to〜

英文はできるだけ「主語は短く」書くのが美しいとされている。しかし、主語に to 不定詞を用いると主語はどうしても長くなる。そこで形式主語構文が必要になる。to 不定詞に代わって形式的に it を主語に立てることによって、文法上の主語は非常に短くできる。そして本当の主語である to 不定詞を文尾にまわすのである。

**13. To learn English is very important.**

**14. It is very important to learn English.**

上の例文 **14.** の形を形式主語構文という。そして、it を形式主語、to 不定詞を真主語という。日本語に訳すと、「外国語を学ぶことはとても重要です。」となる。(it は形式的に置かれているだけなので、「それは」と訳さない。)しかし、この場合、誰が学ぶのかが不明である。そこで、learn するのが誰であるのかを明示したい場合には to 不定詞の直前に〈 for+名詞 〉(代名詞の場合は目的格)を置く。これを to 不定詞の意味上の主語という。例えば、「私たちが英語を学ぶことは重要です」を形式主語構文で書き表すと **15.** のようになる。

**15. It is very important for us to learn English.**

### Dr. Higgins's room

形式主語構文で、It is に続く形容詞が careless (不注意な), clever (賢明な), cruel (残酷な), foolish (愚かな), honest (正直な), kind (親切な), polite (礼儀正しい), rude (不作法な), selfish (利己的な), stupid (馬鹿な), wise (賢明な) など「人の性質」を表す場合には、不定詞の意味上の主語は、of+名詞 (代名詞の場合は目的格) で表す。

**It was kind of you to help me.** (私を助けてくださるとはあなたは親切でした。)

### ② 疑問詞+to～

疑問詞 (who と why は除く) の直後に to 不定詞を接続し、一つのまとまった意味をなす。この場合、全体で名詞の働きをしていると考えられる。

疑問詞+to 不定詞	訳 方
how+to～	～の仕方、どのようにして～すべきか
when+to～	～する時、いつ～すべきか
where+to～	～するところ、どこで～すべきか
what+to～	何を～すべきか
what+名詞+to～	どんな名詞を～すべきか
which+to～	どれを～すべきか
which+名詞+to～	どの名詞を～すべきか

16. **I don't know how to use a computer.** (私はコンピューターの使い方がわかりません。)
17. **Do you know when to start?** (いつ出発するのか知っていますか。)
18. **Do you know where to buy a ticket?** (どこで切符を買うのか知っていますか。)
19. **I didn't know what to do then.** (私はその時何をすればいいのか分らなかった。)
20. **I didn't know what book to buy for you.** (あなたにどんな本を買ったらよいか分らなかった。)
21. **Do you know which to choose?** (どちらを選んだらよいか分りますか。)
22. **Do you know which way to choose?** (どちらの方法を選んだらよいか分りますか。)

### ③ 動詞+目的語+to～

動詞のすぐ後に目的語 (人である場合が多い) を置き、その後に to 不定詞を置く構文。この構文はよく見る英文の形であるが、動詞によって細かな違いがある構文でもあり、非常に複雑でもある。ここでは次の5つの動詞を書くに留める。注意すべきことは、動詞の目的語が to 不定詞の意味上の主語になっていることである。ただし、promise は、to 不定詞の意味上の主語は文の主語である。

動詞+目的語+to 不定詞	訳 方
tell+目的語+to~	目的語に~するように言う
advise+目的語+to~	目的語に~するように勧める
teach+目的語+to~	目的語に~するように教える
promise+目的語+to~	目的語に（主語が）~することを約束する
ask+目的語+to~	目的語に~するように頼む
want+目的語+to~	目的語に~して欲しい
would like+目的語+to~	目的語に~して貰いたい

23. My father **tells me to learn Chinese**. (父は私に中国語を学ぶように言います。)
24. I **advised her to go home at once**. (私は彼女にすぐに家に帰るように勧めた。)
25. My father **taught me to respect my teacher**. (父は私に先生を敬うようにと教えた。)
26. I **promised my mother to come back home at seven**. (私は7時に家に戻ると母に約束した。)
27. She **asked me to lend her money**. (彼女は私にお金を貸してくれと頼んだ。)
28. I **want you to go there**. (私はあなたにそこへ行ってほしい。)
29. My mother **wanted me to be a doctor**. (母は私に医者になって欲しかった。)
30. My mother **told me to do that alone**. (母は私にひとりでそれをするように言った。)
31. My mother **told me not to do that alone**. (母は私にひとりでそれをしないように言った。)

### Dr. Higgins's room

例文 31. で解るように、不定詞の否定形は不定詞の直前に not をつける。例えば、tell+目的語+not to ~で、「目的語に~しないように言う」となる。

情報を伝える場合、発言者の言動をそのまま伝える場合がある。これを「直接話法」という。これに対し、発言者の発した内容を話者の言葉に直して伝える方法を「間接話法」という。「tell+目的語+to~」の構文は命令文の間接話法の形として用いられる。

32. Our teacher always tells us to read more books. [間接話法]
33. Our teacher always says to us, "Read more books." [直接話法]
34. Her mother told her to go there alone. [間接話法]
35. Her mother said to her, "Go there alone." [直接話法]
36. Her mother told her not to go there alone. [間接話法]
37. Her mother said to her, "Don't go there alone." [直接話法]
38. She asked me to lend her money. [間接話法]
39. She said to me, "Please lend me money." [直接話法]

④ too+形容詞（又は副詞）+to～

too は形容詞や副詞を修飾して「余りにも…である」、「…すぎる」という意味を作る副詞である。さらにその後に to 不定詞が続くと、「～するには…すぎる」、「余りにも…なので～できない」という意味になる。どこにも not や no は用いられていないが、意味的には否定文になっていることに注意する。

40. He was too tired to walk any more. (彼は疲れすぎていてもうそれ以上歩けなかった。)

41. This book is too difficult for me to read. (この本は難しすぎて私には読むことができない。)

**Dr. Higgins's room**

「too...to～」の構文は「so+形容詞（又は副詞）+that 主語+can't～」で書き換えることができる。例えば、例文 40. 41. はそれぞれ次のように書き換えることができる。

40' He was so tired that he couldn't walk any more.

41' This book is so difficult that I can't read it.

⑤ 形容詞（又は副詞）+enough to～

enough は形容詞や副詞を後置修飾して「十分に…である」という意味を作る副詞である。さらにその後に to 不定詞が続くと、「～するには十分に…である」、「～できるほど十分…である」、「十分に…なので～できる」などと訳す。

42. You are old enough to travel alone. (あなたはひとりで旅行できるほど十分な年齢です。)

43. He walked slowly enough for his child to keep up with him.

(彼は子どもが自分について来られるくらいにゆっくりと歩いた。)

44. Is it warm enough for the snow to melt? (雪が解けるほど暖かいですか。)

⑥ 形式目的語構文

第5文型（S V O C）のOが to 不定詞の場合、Oはどうしても長くなる。こういうときには、Oに形式的に it を立てることによって、O+Cの構造をすっきりさせることができる。そして、本当のOはCの後に置く。このような構文を形式目的語構文という。

45. I think it important to do your best.

(私は最善を尽すことが大切だと思う。)

46. He found it dangerous to do such a thing.

(彼はそんなことをするのは危険だと分かった。)

47. I make it a rule to take a walk in the morning.

(私は午前中に散歩をすることにしている。)

48. We all consider it wrong to tell a lie.

(私達は皆嘘をつくことは悪いことだと考える。)

49. He felt it his duty to tell the truth.

(彼は真実を話すことが自分の義務だと感じた。)

(04) ⑤ +形容詞+to～

主語の後に〈形容詞+to 不定詞〉が続く形は、全て同じように考えるわけにはいかない。他の構文への書き換えの可否などによって複雑な分類をしなければならない。ここでは、Hornby, A.S. *Guide to Patterns and Usage in English* を中心にして、重要と思われる形容詞の分類を試みた。

① **This river is dangerous to swim in.**

代表的形容詞	dangerous, easy, comfortable, impossible, interesting, pleasant, convenient, difficult, exciting, hard, nice, safe, painful
形容詞の特徴	難易や快不快を表す形容詞
この構文の特徴	文頭の主語が意味の上で to 不定詞の目的語でなければならない。
書き換えの特徴	〈It is・・・ (forA) to～〉に書き換えが可能。
<b>dangerous</b>	この川は泳ぐには危険です。
	<b>This river is dangerous ( for you) to swim in.</b> <b>=It is dangerous ( for you ) to swim in.</b>
よく間違える書き方	<b>* You are dangerous to swim in this river.</b>
<b>easy</b>	ジョンはだまし易い。
	<b>John is easy to deceive.</b> <b>=It is easy to deceive John.</b>
<b>pleasant</b>	ジェーンは話して感じが良い。
	<b>Jane is pleasant to talk with.</b> <b>It is pleasant to talk with Jane.</b>
<b>hard</b>	ジャックは気難しい。
	<b>Jack is hard to please.</b> <b>=It is hard to please Jack.</b>
<b>difficult</b>	この問題は答えるのが難しい。
	<b>This question is difficult to answer.</b> <b>=It is difficult to answer this question.</b>
<b>comfortable</b>	この部屋は勉強するには快適です。
	<b>This room is comfortable to study in.</b> <b>=It is comfortable to study in this room.</b>
<b>impossible</b>	あの男とは一緒に働けない。
	<b>That man is impossible to work with.</b> <b>=It is impossible to work with that man.</b>
<b>possible *</b>	<b>* That man is possible to work with.</b> possible はこの型では使えない。it を用いて次のようにする。 <b>It is possible to work with that man.</b>
<b>necessary *</b>	<b>* You are necessary to buy the ticket.</b> necessary はこの型では使えない。it を用いて次のようにする。 <b>It is necessary for you to buy the ticket.</b>

注) \* (アスタリスク) はその文が非文であることを示す。

② You are kind to help me.

代表的形容詞	kind, good(=kind), careless, clever, cruel, crazy, foolish, brave, generous, honest, polite, rude, selfish, sensible, silly, stupid, wise, naughty
形容詞の特徴	親切・賢明・軽率など人物に対する話者の評価を表す形容詞
この構文の特徴	主語になり得るのは人間または他の生物。
書き換えの特徴	〈It is・・・ (ofA) to～〉に書き換えが可能。
kind	私を助けてくださるとはあなたは親切な方だ。
	<b>You are kind to help me.</b>
	<b>=It is kind of you to help me.</b>
foolish	あの男に金を貸すとはジョンは愚かだ。
	<b>John is foolish to lend money to that man.</b>
	<b>=It is foolish of John to lend money to that man.</b>
brave	一人でそこに行くとはジェーンは勇敢だった。
	<b>Jane was brave to go there alone.</b>
	<b>=It was brave of Jane to go there alone.</b>
clever	そのパズルがそんなに速く解けるなんてジャックは頭がいい。
	<b>Jack is clever to solve the puzzle so quickly.</b>
	<b>=It is clever of Jack to solve the puzzle so quickly.</b>
naughty	あなたの顔に絵の具で色を塗るとはアンジェラは悪戯っ子ね。
	<b>Angela was naughty to paint your face.</b>
	<b>=It was naughty of Angela to paint your face</b>
cruel	父親にそんなことを言うとはテンペランスは残酷だ。
	<b>Temperance is cruel to say that to her father.</b>
	<b>=It is cruel of Temperance to say that to her father.</b>
crazy	ピエロに向けて銃を撃つとはブースは正気じゃない。
	<b>Booth was crazy to shoot a gun at a Pierrot.</b>
	<b>=It was crazy of Booth to shoot a gun at a Pierrot.</b>
careless	まどの鍵をかけておかなかったとは彼は不注意だった。
	<b>He was careless to leave the window unlocked.</b>
	<b>=It was careless of him to leave the window unlocked.</b>
polite	老婦人を助けてあげるとはあなたは思いやりがあった。
	<b>You were polite to help the old lady.</b>
	<b>=It was polite of you to help the old lady..</b>
stupid	彼女にまた会うとは彼も馬鹿だ。
	<b>He is stupid to meet her again.</b>
	<b>=It is stupid of him to meet her again.</b>
よく間違える形容詞	careful は 〈It is・・・ (ofA) to～〉 の文型では使えない。 * <b>It was careful of you to lock the window.</b>

注) \* (アスタリスク) はその文が非文であることを示す。



③ **He is likely to succeed.**

代表的形容詞	likely, unlikely, certain, lucky, sure
形容詞の特徴	確実性・可能性などその状況に対する話者の判断を表す形容詞
この構文の特徴	〈It is...forA+to~〉への書き換えは不可。
書き換えの特徴	〈It is...that⑤+⑥〉に書き換えが可能。(sure は不可)
likely	彼は成功しそうだ。
	<b>He is likely to succeed.</b>
	<b>=It is likely that he will succeed.</b>
unlikely	私たちのクラスは勝ちそうにない。
	<b>Our class is unlikely to win.</b>
	<b>=It is unlikely that our class will win.</b>
certain	彼はきっと来ますよ。
	<b>He is certain to come.</b>
	<b>=It is certain that he will come.</b>
	(参考) <b>He is certain of winning.</b> (彼はきっと勝つと自分で確信している。)
lucky	彼は試験に合格して幸運だ。
	<b>He was lucky to pass the examination.</b>
	<b>≒It is lucky that he passed the examination.</b>
	「主語+be+lucky+to不定詞」は《主語の幸運》を強調し、 「It is lucky+that節」は《that以下のことが結構なことだ》という意味になる。 (Thomson,A.J. & A.V. Martinet, 1986 <sup>4</sup> : 27)
sure	彼はきっと来るだろう。
	<b>He is sure to come.</b>
	<b>* It is sure that he will come.</b>
probable	彼はたぶん来るだろう。
	<b>* He is probable to come today.</b>
	○ <b>It is probable that he will come.</b>
	<b>=He will probably come.</b>

注) \* (アスタリスク) はその文が非文であることを示す。

④ **She is anxious to meet John.**

代表的形容詞	anxious, eager, keen, ready, willing, impatient
形容詞の特徴	行動の準備、切望や意欲を表す形容詞
この構文の特徴	不定詞の表す動作は未来を指向。
書き換えの特徴	〈It is・・・forA+to～〉 〈It is・・・that 節〉 への書き換えは不可。
anxious	彼女はジョンに会いたがっている。 ----- <b>She is anxious to meet John.</b> ----- 彼女は息子をジョンに会わせたいがっている。 ----- <b>She is anxious for her son to meet John.</b>
	社長はコンピューターの使い方を習いたがっている。 ----- <b>The boss is eager to learn how to use computers.</b> ----- 社長は私たちにコンピューターの使い方を習って貰いたがっている。 ----- <b>The boss is eager for us to learn how to use computers.</b>
	あなたと一緒にご同行しても構いませんよ。 ----- <b>I am quite willing to come with you.</b> ----- 息子があなたと一緒にご同行しても構いませんよ。 ----- <b>I am quite willing for my son to come with you.</b>
keen	彼は試験に合格することを切望している。 ----- <b>He is keen to pass the examination.</b> ----- 彼は娘が試験に合格することを切望している。 ----- <b>He is keen for his daughter to pass the examination.</b>
	私の子どもたちはしきりに外に出かけたがっている。 ----- <b>My children are impatient to go out.</b> ----- 私の子どもたちは私が外出するのをうずうずして待っている。 ----- <b>My children are impatient for me to go out.</b>
	<b>patient *</b>
ready	私達は出発する準備はできています。 ----- <b>We are ready to start.</b>

注) \* (アスタリスク) はその文が非文であることを示す。

(05) to 不定詞を用いた文の書き換え

① 「とても…なので～できない」

「私はとても疲れたのでもうこれ以上歩けません。」		
too + 形容詞 / 副詞 + to ~	⇔	so + 形容詞 / 副詞 + that ㊸ can't + ㊹
I'm <b>too tired to</b> walk any more.		I'm <b>so tired that</b> I <b>can't</b> walk any more.

② 「～できるほど十分な…です」 = 「十分…なので～できます」

「私は車の運転ができるほど十分な年齢です。」「私は十分な年齢なので運転できます。」		
形容詞 / 副詞 + enough to ~	⇔	so + 形容詞 / 副詞 + that ㊸ can't + ㊹
I'm <b>old enough to</b> drive a car.		I'm <b>so old that</b> I can drive a car.

③ 「～の仕方を知っています」 = 「～できる」

「私はコンピューターの使い方を知っています。」「私はコンピューターが使えます。」		
㊸ + know how to ~	⇔	㊸ + can + ㊹
I <b>know how to</b> use a computer.		I <b>can use</b> a computer.

④ 疑問詞 + to ~ ⇔ 間接疑問文

「何をするのか分からなかった。」「どうすべきか分からなかった」		
疑問詞 + to ~	⇔	疑問詞 + ㊸ + should + ㊹
I <b>didn't know what to</b> do then.		I <b>didn't know what I should</b> do then.

⑤ 「私に～して貰いたいですか」 = 「私が～しましょうか」

「私に鞆を運んで貰いたいですか。」「私が鞆を運びましょうか。」		
Do you want me to ~ ?	⇔	Shall I + ㊹ ~ ?
<b>Do you want me to</b> carry your bag?		<b>Shall I</b> carry your bag?

⑥ 「～する必要がある」の2通り

「あなたはその仕事をする必要があります。」		
It is necessary for you to ~	⇔	You need to ~
<b>It is necessary for you to</b> do the work.		<b>You need to</b> do the work.

<<< 参考図書 >>>

『英語教師の文法研究』 安藤貞雄著 (1984年再版発行 大修館書店)

『表現のための 実践ロイヤル英文法』 綿貫陽 マーク・ピーターセン共著 (2006年発行 旺文社)

『英文法総覧』 安井稔著 (1996年改訂版発行 開拓社)

『英文法解説』 江川泰一郎著 (1991年改訂第3版発行 金子書房)

『第3版オックスフォード<sup>®</sup> 実例現代英語用法辞典』 Michael Swan 著 吉田正治訳 (2007年発行 研究社/オックスフォード<sup>®</sup> 大学出版局)

『英語基本形容詞・副詞辞典』 小西友七編 (1989年発行 研究社)

*A Practical English Grammar*, Thomson, A.J. and A.V. Martinet (1986<sup>4</sup> Oxford University Press)

『第4版 実例英文法』 AJ トムソン/AV マーティネット著 江川泰一郎訳注 (1988年発行 オックスフォード<sup>®</sup> 大学出版局)

*Guide to Patterns and Usage in English*, Hornby, A.S. (1975<sup>2</sup> Oxford University Press)

『英語の型と語法』 AS ホーンビー著 伊藤健三訳注 (1977年発行 オックスフォード<sup>®</sup> 大学出版局)